

第17回教育研究推進センター講演会

「高齢者の健康寿命延伸をめざす 基礎免疫老化研究」

～B細胞における加齢変化と免疫老化～

日時：平成29年**10月20日**（金）**17時00分**より

会場：旭川医科大学教育研究推進センター
2階カンファレンスルーム（共用研究棟）

丸山 光生 先生

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
研究所 副所長
老化機構研究部 部長



近年の基礎老化研究の発展は著しいものがあり、老化のしくみを分子・細胞レベルで解析し、そこから得られた知見を元に、組織あるいは個体の老化を制御することで老年疾患の重篤化の回避、あるいは予防を目指している。

老化のメカニズムの解明に向けた基礎研究は、分子、細胞レベルを中心に寿命研究で数々の成果を残してきたモデル生物を用いて進められてきた。しかしながら、それらの機能低下を伴う変化の生理的意義に関する研究は極めて重要であるものの、未だ不明な点が多い。

我々は、加齢変化の中で見られる様々な加齢性疾患の原因となる生体機能の低下、恒常性の破綻のメカニズム、特に、その一端を担う加齢に伴う免疫機能の低下を標的に研究を続けている。動物(マウス)個体においてそれらを明らかにし、高齢者(ヒト)の感染症や発癌を含めた様々な老年疾患の予防や治療に役立てる事を目的とした基礎老化研究を推進している。

本講演会では、Cdc42に結合して活性化する免疫組織特異的GDP/GTP交換因子(GEF)であるZizimin2とそのファミリー遺伝子(Dock10,11)の生理的機能の解析を通して、免疫老化、とりわけ高齢者の多くが重篤化に苦しむ外界からの感染に対する免疫応答の賦活化を考察しつつ、現在私達が取り組んでいる研究の一端を紹介する。

なお、セミナーを撮影したビデオを学内限定で公開させていただきます事をご了承下さい。

主催：教育研究推進センター

連絡先：船越 洋・藤倉大輔（内線2648）